



軽防協ニュース速報

2014 年第 3 四半期(7 月-9 月)の伝染病発生状況

(International Collating Centre からの情報)

オーストラリアからの報告は、1 四半期遅れて配信されることに注意されたい。従って、以下に、オーストラリアの 2014 年第 2 四半期の報告を記載する。その後、その他の国の 2014 年第 3 四半期の報告を通常の形式で記載する。

オーストラリアの 2014 年第 2 四半期の報告

Animal Health Australia(AHA)による Animal Health Surveillance Quarterly(AHSQ)

<http://www.animalhealthaustralia.com.au/elibrary> を参照

州および準州の報告

オーストラリアでは、動物の疾病管理に関しては、州と準州がそれらの領域内で責任を負っている。国の動物衛生プログラムが動物衛生委員会との協議を通じて推進され、オーストラリア動物衛生局(AHA)によって管理されている。

クイーンズランド州

Greg Williamson (クイーンズランド州農漁林業省) による報告

ヘンドラウイルス

ヘンドラウイルス (HEV) 感染症の 1 事例が、ゴールドコースト地域のブーンリーにある施設において認められた。6 月上旬に、ワクチン未接種の 22 歳サラブレッド種去勢馬が、食欲不振および少量の緑色鼻漏を呈した。翌日の獣医師による検査では、乾燥した血様の鼻漏、運動失調、粘膜色の悪化および発熱 (38.8°C) を呈した。翌日夜には悪化したため安楽死処置がとられた。血液、口腔および直腸スワブを用いた PCR 検査によってヘンドラウイルスであることが確認された。

感染が確認された施設は隔離され、さらに他に暴露された可能性のある 2 頭の馬についてモニタリングおよび検査が実施された。3 回の PCR 検査および血清学的検査によってさら

なる感染がないと確認された 2014 年 7 月上旬に検疫は解除された。

4 月～6 月の間に実施されたその他すべての HEV 検査は陰性であった。

ワクチン接種は馬の HEV 感染の危険性を低減する最も有効な方法である。馬の所有者はワクチン接種について獣医師のアドバイスを求めることが薦められる。馬の HEV 予防のためのさらなる情報は以下のアドレスから入手可能である。

www.biosecurity.qld.gov.au

サウスオーストラリア州

Celia Dickason（サウスオーストラリア州第一次産業資源省）による報告

神経症状-ウエストナイルウイルスおよびヘンドラウイルスの関与は否定

2014 年の 5 月から 6 月の間に、神経症状を示す馬が増加しているとの報告が民間の獣医師よりなされ、その頭数は 5 月で 3 頭、6 月で 9 頭であった。例年、同時期に報告されている頭数は月に 1～2 頭である。症例の殆どがアデレードの北部地区で発症している。報告された神経症状の程度や重症度は様々であった。もっとも一般的に認められた臨床症状は、頭部を振る、転倒、眼振、旋回、運動失調および筋痙攣であった。

症状が認められた全ての馬は、ウエストナイルウイルス検査陰性であった。一部の症例ではヘンドラウイルスの検査も実施され陰性であった。剖検では感染症の徴候やその他明らかな病理所見は認められなかった。神経症状の原因として異なるいくつかの要因があった可能性が高い。

5 月のサウスオーストラリア州は、降雨が多く非常に温暖であったため、植物の急速な生長がみられた。そのため植物毒やマイコトキシンの関与も考えられる。いくつかの調査が現在も実施中であり、さらなる情報が次回発行される **Animal Health Surveillance Quarterly** に提供されるであろう。

タスマニア州

Mary Lou Conway（タスマニア州第一次産業・公園・水・環境省）による報告

4 歳の去勢馬が急性の呼吸器疾患を突然発症し、民間の獣医師によって検査がなされた。鼻腔スワブと血液サンプルが採取された後、安楽死の処置がとられ埋葬された。推測された診断は心疾患であったが、ニューサウスウェールズ州北部から最近導入された健康な馬と接触していたため、鑑別診断としてヘンドラウイルスも含まれていた。PCR 検査によって

鼻腔スワブおよび血液ともにヘンドラウイルス陰性であることが確認された。

ポニーの神経症候群

1月後半、ニューサウスウェールズ南部から移動して1週間の7歳ポニー種牡馬において重度の運動失調および筋肉の震顫が報告された。獣医の管理下でサポート治療を受け、翌月までに徐々に回復した。2月後半には、1歳の牡馬で運動失調が認められたが、最初の発見から数時間以内で完全に回復した。どちらの症例においても、発汗、食欲不振、あるいは頭部の下垂や旋回など重度の中樞神経障害の徴候は認められなかった。

3月後半には上記の7歳のポニーが再発し、6週間にわたって同様の臨床症状が続いた。現在は臨床的に正常である。この発症期間中、血液生化学検査では明らかな異常は認められなかった。再発時およびその7週後の2回にわたって、採取されたサンプルを用いたフラビウイルスのELISA検査が実施された。結果は、最近フラビウイルスへ暴露されたことを示唆するものではなく、依然として診断は確定していない。パドックの馬群を含め、施設にいるその他全ての馬は一貫して健康である。

ニューサウスウェールズ州

報告事項なし

ヴィクトリア州

報告事項なし

ウェスタンオーストラリア州

報告事項なし

ノーザンテリトリー州

報告事項なし

2014年第3四半期の報告

アルゼンチン

ウマヘルペスウイルス (EHV-1) による流産

2014年7月28日に5つの施設において発生が始まり、最後の報告は2014年9月26日であった。

施設1: 同じパドックで飼養されていたポロ用の妊娠牝馬40頭のうち、2頭で流産が認められた。流産の発生は妊娠8ヶ月および10ヶ月であった。流産馬に事前の臨床兆候は認められなかった。両症例ともに胎盤は胎仔を伴って排出された。神経症状

は認められていない。流産馬は妊娠 5、7 および 9 ヶ月で「Pneumoaborts K」のワクチン接種を受けていた。

施設 2：2014 年 5 月からの 5 ヶ月間で、53 頭のうち 7 頭で流産が認められた。妊娠 9 ヶ月で流産した最後の症例だけが研究所に送られた。流産馬にワクチン接種はなされていなかった。

施設 3：ワクチン接種がなされていなかったこと以外の臨床歴は不明である。

施設 4：妊娠馬は 30 頭ずつ 3 群で飼育されていた。流産は 5 月から始まり、9 月に発生した 3 頭が最後で、そのうち 1 頭のみが研究所に送られた。流産は出産予定日の 20 日前に発生した。妊娠馬に流産の兆候は認められず、胎盤は胎仔とともに排出された。神経症状は認められていない。流産はポロ用の牝馬で発生した。流産馬は妊娠 5、7 および 9 ヶ月で「Pneumoaborts K」のワクチン接種を受けていた。

施設 5：同じパドックで飼養されていたポロ用妊娠牝馬 90 頭のうち、20 頭は異常なく出産し、2 日で 2 件の流産の発生があった。妊娠馬に流産の兆候は認められず、胎盤は胎仔とともに排出された。神経症状は認められなかった。流産馬は妊娠 5、7 および 9 ヶ月で「Pneumoaborts K」のワクチン接種を受けていた。

国立技術農業研究所（INTA）のウイルス学研究所（カステラーレ）で確定診断がなされた。

オーストラリア

冒頭で述べたように、オーストラリアの 2014 年第 2 四半期の報告を上述した。

カナダ

馬伝染性貧血（EIA）

2014 年 7 月 1 日から 9 月 30 日の間に、サスカチュワン州の異なる 8 施設において合計 20 頭の EIA 陽性馬が確認された。8 施設のうち 2 施設は、本年の疾病調査を実施中の一部であった。8 施設のうち 3 施設は以前にも感染が確認されており、2 施設は 2011 年、1 施設は 2013 年であった。

チリ

報告未着

デンマーク

報告未着

フランス

(フランスの馬感染症疫学監視ネットワークの RESPE から提供された情報)

ウマヘルペスウイルス-4 (EHV-4) による流産

カルヴァドス県において、EHV-4 による流産の発生が 1 件確認され、流産胎仔の臓器を用いた PCR 検査によって確定診断がなされた。

ウマヘルペスウイルス-1 (EHV-1) による神経疾患

2014 年 7 月 18 日、セーヌ＝エ＝マルヌ県において EHV-1 による致死的な神経疾患の発生が確認された。感染馬は 14 歳のポトック種牝馬で、7 月 11 日から嗜眠、運動失調、発熱、麻痺および発汗の臨床症状を呈した。鼻咽頭スワブを用いた PCR 検査によって確定診断がなされた。

ウマヘルペスウイルス-4 (EHV-4) による呼吸器疾患

アリエ県、カルヴァドス県、ヴァル＝ド＝マルヌ県において 3 件の EHV-4 による呼吸器疾患の発生が確認された。1 件で感染馬が発熱を呈した。鼻咽頭スワブを用いた PCR 検査によって確定診断がなされた。

ピロプラズマ病

フランスでは依然、風土病である。

馬ロタウイルス

ピレネ＝アトランティック県において、ロタウイルスの感染が 1 件確認された。感染馬は下痢の症状が認められた。糞便を用いた PCR 検査によって確定診断がなされた。

腺疫 (*Streptococcus equi*)

腺疫の発生が 2 頭のフレンチサドルブレッド種を含めて 12 件確認された。発生はオード県、カルヴァドス県、オート＝ガロンヌ県、エロー県、イル＝エ＝ヴィレーヌ県、アンドル＝エ＝ロワール県、ロット＝エ＝ガロンヌ県、セーヌ＝エ＝マルヌ県およびエソンヌ県において認められた。感染馬は、発熱、鼻漏、咳、食欲不振および嗜眠等の臨床症状を呈した。鼻咽頭スワブあるいは化膿性の鼻汁材料を用いた菌分離および PCR 検査によって確定診断がなされた。

馬インフルエンザ、馬ウイルス性動脈炎、ウエストナイルウイルス感染症、馬伝染性貧血および馬伝染性子宮炎は報告無し。

ドイツ

報告事項なし

Dr.Boese 研究所有限公司 (HBLB CEMO 認定研究所) による検査結果

馬伝染性子宮炎 (CEM)

生殖器スワブを用いた PCR 検査により、4 頭の非サラブレッド種 (3 頭の種牡馬と 1 頭の牝馬) で CEM が確認された。

ウマヘルペスウイルス-1 (EHV-1) による流産

この四半期の間に EHV-1 による流産が 1 件確認された。胎盤組織を用いた PCR 検査によって確定診断がなされた。

ウマヘルペスウイルス-4 (EHV-4) による呼吸器疾患

この四半期の間に 9 頭の馬において EHV-4 感染による呼吸器疾患が確認された。鼻咽頭スワブを用いた PCR 検査によって確定診断がなされた。

腺疫 (*Streptococcus equi*)

異なる 4 施設の 4 頭において腺疫が確認された。1 例は発熱とリンパ節腫瘍を呈した子馬であった。1 例は発熱および咳の症状を呈し、その他の 2 例については特記すべき臨床症状は認められなかった。

香港

報告事項なし

アイルランド共和国

ウマヘルペスウイルス-4 (EHV-4) による呼吸器疾患

EHV-4 による呼吸器疾患の発生が 2 件確認され、7 頭の陽性が報告された。1 例は死後に診断された。

馬インフルエンザ

ティペラリー州およびミース州においてワクチン未接種の非サラブレッド種が馬インフルエンザと診断された。ミース州で確認されたウイルスはフロリダ亜系統のクレード 2 に属していた。

イタリア

ウエストナイルウイルス感染症 (WNV)

実施されているサーベイランス活動は、発生地域におけるウイルスの活動をモニタリングするため、およびまだ発生していない地域へのウイルスの侵入を早期に発見するための、それぞれ異なる疫学状況に対応している。

イタリアにおける WNV のサーベイランスは以下の項目について実施されている。

- 対象種となる留鳥の調査。調査活動の達成率が計画の 50%に満たない場合には、農村または屋外飼育施設の家禽、あるいはおとり鶏 (sentinel chickens) 群を配置することを代替調査として実施することができる。
- 馬の調査
- 昆虫学的調査
- 野鳥の死亡数の調査

現在 (2014 年 9 月 9 日) までに、海外疾病研究センター (CESME) において以下の通り WNV の陽性が確認されている。

- エミリア・ロマーニャ州およびロンバルディア州の馬 2 頭
- エミリア・ロマーニャ州およびロンバルディア州において、対象種に含まれている鳥類 19 羽、内訳はハイイロガラス (*Corvus corone cornix*) 11 羽、カササギ (*Pica pika*) 7 羽およびカケス (*Garrulus glandarius*) 1 羽
- エミリア・ロマーニャ州およびロンバルディア州における野鳥 1 羽
- ロンバルディア州、エミリア・ロマーニャ州、ヴェネト州、フリウリ・ヴェネツィア・ジュリア州およびサルデーニャ州における蚊 43 プール (訳注: 1 プールは 1 回の捕獲で得られた蚊の全数をひとかたまりとして表す)
- シチリア州の農村の農場の鶏 1 羽

鳥類および蚊から得られたウエストナイルウイルス株の遺伝子学的分析が行われ、発生地域においては系統 2 のウイルスが蔓延していることが確認された。

馬においては、現在までに 2 件の発生のみ報告されている。2 件の陽性馬にはどちらも臨床症状が認められた。最初の発生は 6 頭、2 件目では 1 頭であった。死亡した馬はいなかった。

馬科動物において神経疾患が疑われた全ての症例は、他の感染性の原因と関連のない野鳥が死亡した場合と同様に、直ちに国の保健当局に報告されている。

出典: *Bollettino epidemiologico WND n.6 – 09.09.2014, CESME, Centro di Referenza Nazionale,*

現在までにエミリア・ロマーニャ州およびロンバルディア州において、ウエストナイルウイルス（WNV）によるヒトの神経症例が4件報告されている。症例はいずれも2014年8月13日から8月25日の間に報告されている。

出典：*Reparto di Epidemiologia delle malattie infettive (Cnesps-Iss), con il contributo del Dipartimento di Malattie infettive parassitarie immunomediate (Mipi) dell'Istituto superiore di sanità, e con il coordinamento dell'Ufficio V della Direzione Generale della Prevenzione del Ministero della Salute*

日本

ゲタウイルス感染症

2014年9月25日、茨城県的美浦トレーニング・センターにおいてゲタウイルス感染症の発生が報告され、JRA競走馬総合研究所における血液を用いたRT-PCR検査によって確定診断がなされた。感染馬22頭のうち13頭がワクチン接種を受けており、9頭がワクチン未接種であった(訳注：正確にはワクチンの基礎接種完了前に発症)。感染馬は発熱、発疹、浮腫の症状が認められた。殆どの例で症状は軽度であった。美浦トレーニング・センターにおけるゲタウイルス感染症の発生は1979年以来35年ぶりである。

ニュージーランド

報告事項なし

シンガポール

馬パラチフス (*Salmonella abortus equi*)

馬パラチフスの限定的な発生が2014年10月15日に始まり、1施設で5頭の非サラブレッド種が感染した。感染馬には国際的な興行用馬が含まれており、シンガポールでの興行期間中は隔離措置がとられた。感染馬は原産国からの新たな要求により、一般的な輸出前手続きの一環として馬パラチフスの検査が行われた。診断法は試験管凝集法であり、確定診断はシンガポール農産物・家畜庁によってなされた。この興行では種牡馬および去勢馬のみが使用されていた。

南アフリカ

報告事項なし

韓国

報告未着

スペイン

ピロプラズマ病 (*Babesia caballi* および *Theileria equi*)

スペインでは風土病である。

スウェーデン

報告未着

スイス

ピロプラズマ病

この四半期の間異なる 2 件の報告があり、発生は 8 月および 9 月あった。診断は 1 件が PCR 検査、1 件は血清学的検査によってなされた。

ウマヘルペスウイルス-1 (EHV-1) による神経疾患

2014 年 7 月に 1 件の報告があり、運動失調および尿失禁などの神経症状を呈した。診断は PCR 検査によってなされた。

腺疫 (*Streptococcus equi*)

2014 年 8 月に 1 件確認され、菌分離によって確定診断がなされた。

エーリキア症

2014 年 7 月に 1 件確認され、発熱や神経症状が認められた。血清学的検査によって診断がなされた。

トルコ

ウエストナイルウイルス感染症 (WNV)

2014 年 8 月 18 日、ワクチン未接種の興行用馬において 1 件の発生が報告された。協調運動失調およびその他の神経症状を呈した。更なる通知があるまで発生があった調教場からの移出入が制限されている。

アラブ首長国連邦 (UAE)

ピロプラズマ病 (*Theileria equi* および *Babesia caballi*)

UAE の非サラブレッド種においてピロプラズマ病は風土病であり、定期的に臨床例が報告されている。確定診断はドバイ中央獣医学研究所による血清学的検査および病原体分離によってなされている。

イギリス

イギリスにおける症例と発生は、既に中間報告書により公表されているのでそれらを参照のこと。

- ウマヘルペスウイルス-4 (EHV-4) による呼吸器疾患

http://www.aht.org.uk/icc/Interim_Report1_july14.html

http://www.aht.org.uk/icc/Interim_Report6_july14.html

http://www.aht.org.uk/icc/Interim_Report7_july14.html

http://www.aht.org.uk/icc/Interim_Report8_july14.html

http://www.aht.org.uk/icc/Interim_Report5_august14.html

http://www.aht.org.uk/icc/Interim_Report8_august14.html

http://www.aht.org.uk/icc/Interim_Report1_september14.html

http://www.aht.org.uk/icc/Interim_Report5_september14.html

- ウマヘルペスウイルス-1 (EHV-1) による神経疾患

http://www.aht.org.uk/icc/Interim_Report3_july14.html

- 馬インフルエンザ

http://www.aht.org.uk/icc/Interim_Report7_august14.html

http://www.aht.org.uk/icc/Interim_Report8_august14.html

http://www.aht.org.uk/icc/Interim_Report4_september14.html

http://www.aht.org.uk/icc/Interim_Report5_september14.html

http://www.aht.org.uk/icc/Interim_Report6_september14.html

http://www.aht.org.uk/icc/Interim_Report7_september14.html

http://www.aht.org.uk/icc/Interim_Report8_september14.html

http://www.aht.org.uk/icc/Interim_Report9_september14.html

アメリカ合衆国

コリネバクテリウム・シュードツベルクローシス感染症 (ハト熱)

C. pseudotuberculosis 感染症は、以前の報告と比較して頻繁に診断され続けており、発生の地理的分布も拡大している。現時点で正確な発生数は不明である。

東部ウマ脳脊髄炎 (EEE)

EEE の発生が 16 州で合計 114 頭確認され、その多くはフロリダ州 (58 頭) での発生であった。

ウマヘルペスウイルス (EHV1-5)

アメリカにおける馬集団の EHV-1 および EHV-4 の遍在的な分布を示す血清学的データは数多く存在する。これらのウイルスによる感染の多くは、特に若齢馬における呼吸器疾患と関連している。

EHV-2 による感染は単独でも、また EHV-5 と併せても診断されることは稀である。

馬伝染性貧血 (EIA)

6 月上旬以降、カリフォルニア州のクォーターホース競走馬において EIA の症例が増加している。全ての症例馬は、メキシコから違法に輸入されたか、あるいはそのような馬と非常に密接に関連したものと考えられている。

ピロプラズマ病 (EP)

国内の EP 発生状況は、米国農務省動植物衛生検査局獣医学部門 (USDA-APHIS-VS) によって調査が続けられている。馬ピロプラズマ病 (*Theileria equi*) の追加症例が主にテキサス州、カリフォルニア州およびフロリダ州をはじめとして多くの州で確認されている。確認された全ての馬は、メキシコから違法に輸入されたか、あるいは以前に輸入されたリスクの高い (大部分が主に非認定競走に参加したクォーターホース競走馬) 馬であった。カリフォルニア州では、馬伝染性貧血ウイルスに感染した馬における EP の発生が 11 例報告されている。入手できた証拠から、これらの馬もまたメキシコから違法に輸入されたことが示唆されている。

ロドコッカス・エクイ感染症

Rhodococcus equi 感染症は米国では風土病であり長年にわたって発生している。合計で 44 頭の発生が確認されているが、この数字はおそらく実際に国内で診断された発生数よりも低く見積もられているものと思われる。

サルモネラ症

サルモネラ症発生の報告が続いており、その大部分が B 群によるものであった。

腺疫 (*Streptococcus equi*)

米国の馬では腺疫は風土病であり、多くの州が発生を報告している。

水胞性口炎 (VS)

2014 年第 3 四半期においてもニュージャージー型ウイルスによる活動が続いている。365 施設で確認されており、コロラド州が 310 施設、テキサス州が 55 施設となっている。感染

が確認された郡はコロラド州で 14 郡、テキサス州で 13 郡である。水胞性口炎ウイルスの陽性が確認された 365 施設のうち、350 は馬の施設、13 は牛の施設、2 つは両方とも飼養されていた。馬はコロラド州で 430 頭、テキサス州で 78 頭の感染が確認されている。

ウエストナイル脳炎 (WNE)

2014 年第 3 四半期の間合計 66 例の WNE が確認されている。32 州で発生があり、カリフォルニア州、ミズーリ州、オクラホマ州およびテキサス州では 2 桁の症例が報告されている。

ベネズエラ

報告未着